

もっと高齢者一人一人に向き合いたい！と思いながらも、「電話・FAX・紙文化」「ITリテラシーの低さ」で記録書類の作成に時間を取られ、思うように働けていないケアマネ。電話内容の録音・文字起こし要約と手書きメモのハイブリットで単純記録作業から解放するAI文字起こしアプリ kikunote

業界としての課題

紙を基本とした遅い情報インフラでICT活用は進んでおらず、単純作業に業務時間の3割もを費やし時間も人手も足りていない現状。

もっとケアマネを専門性で輝かせるには

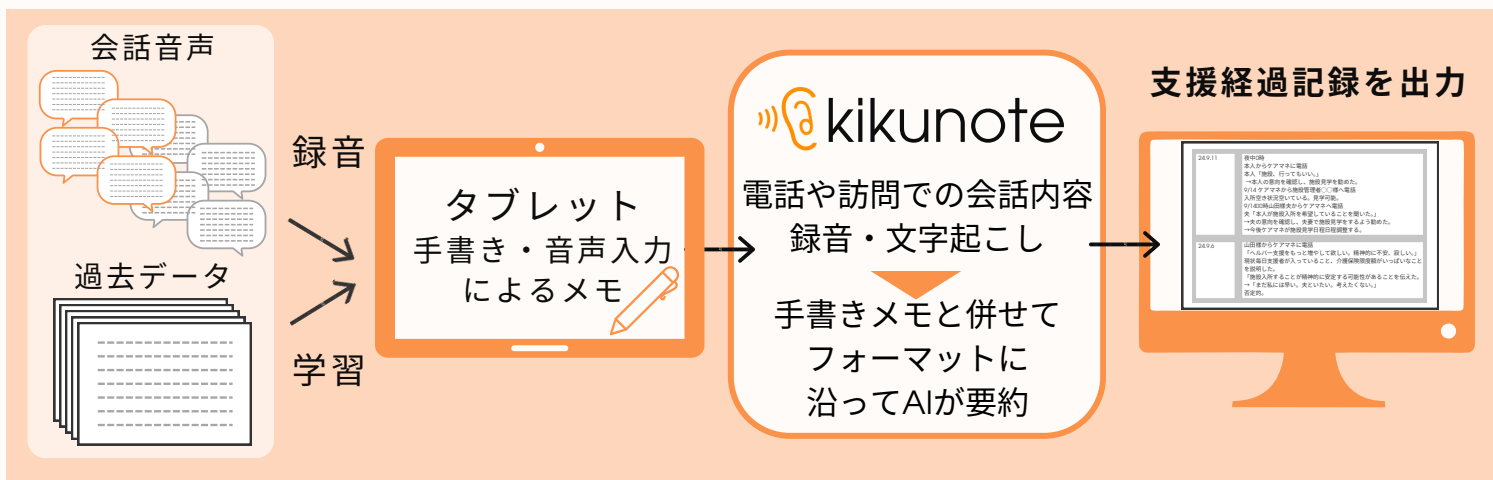
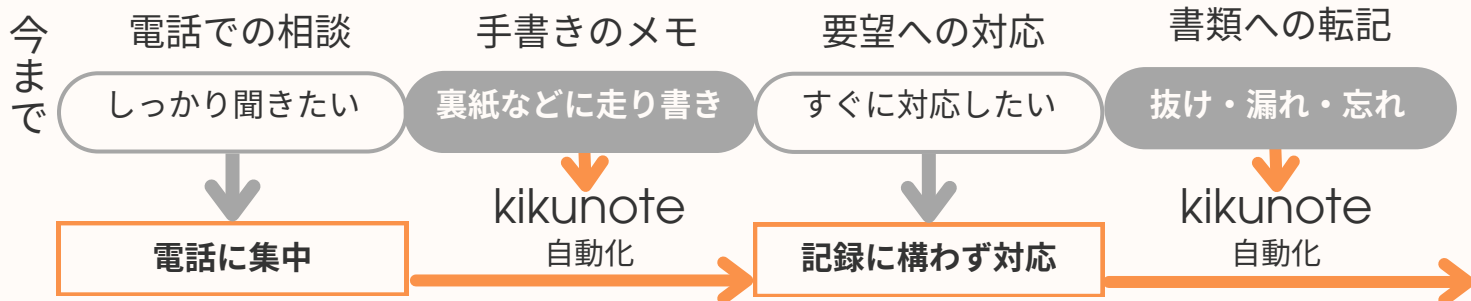
①単純作業の自動化

クリエイティブでない単純作業として「支援経過記録表」に着目。

②新たな情報インフラ構築

電話機や郵便に代わり「みんながkikunoteを持っている」状況を実現。

支援経過記録からDX化 現場の声から出た「欲しいサービス」からDX化を推し進め、現場への浸透を図る。



空き時間を捻出

支援経過作成
1月あたり

20時間
7分

精度の高い記録作成

ばらばら	▶ 平準化
抜け漏れ	▶ 記録に残る
記憶辿り	▶ データ参照

再採用コスト削減

残業代 約100万円
再採用コスト 約200万円

300万円

ケアプラン作成の根拠となる支援経過記録は、後まわしになりやすく、メモや記憶を頼りに作成されている。これを kikunote は ①電話内容を録音し ②タブレットでの手書きメモと併せて ③フォーマットに合わせて要約することで省力化を図る。

1人1人に向き合えるケアプランの質向上 事業所もメリット

ケアマネである母の姿を見ているなかで、老後30年の人生設計のデザインをする素敵な仕事なのだから、もっと働きやすく、誇りをもって働けないかと考え、この事業を構想した。ヒアリングを重ねるなかで、このサービスをなんとか届けたいと思うようになった。今後も課題と向き合っていきたい。